

ごきげんよう

学校の卒業者からが若竹の

表紙にまつていの校舎

大正時代の建物として立派な寺と

寺かき

この学校へ入学したものの

学校へ行つては二日たか

三日には空ニニウでやけてしきつてい

学校は宇喜を見よたか

この寺んようは

この時かた

朝もかえり時ごきげんよう

いいなれるとて

けすかしかのが現在もごきげんよう

かづりていよ

目上の人にはごきげんようしゅう

と二級五比いわけたニと不ぼえてい

ちよと体不ふれそうにるると

ごめんめんははい

入学早々校強し知うる

農場へ収穫のよろこび

の豊作で年明けの先が

戸空 ひとこと ひとこと

おしえてくれた

尾上のかかり 谷のやり

人こそ 知らね 咲きにおう

清き心で 心にて 乙女の道をいそいそと

わすれぬ ことの多い中

この歌は 今もうたえぬ

私はこの

柳直村 あま 宮箒女学校に入学したのだ

若き いろはいろは

2024
8/30